

WordPress

ローカル環境 構築ガイド



エビスコム 編著

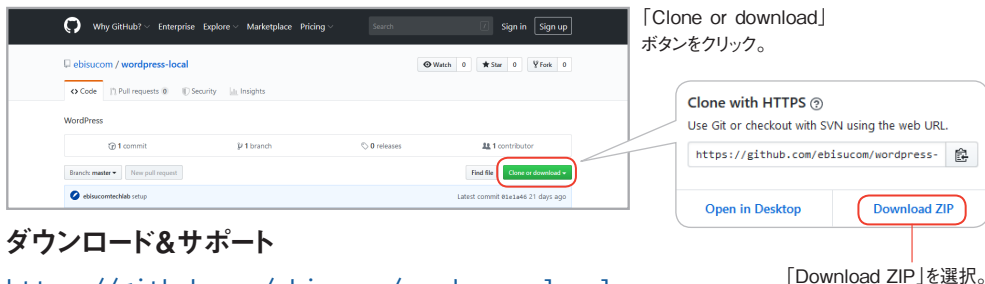


CONTENTS

1	WordPressのローカル環境	3
2	Flywheel とは?	3
3	Local by Flywheelを導入する前の予備知識と確認.....	4
4	Local by Flywheelのインストール	7
5	WordPress環境の作成.....	9
6	WordPressへのアクセス.....	15
7	Local by Flywheel の終了と再起動	17
8	Local Lightning.....	18

本書は下記の GitHub で配布している PDF です。

再ダウンロードする場合、git を使っていただくか、「Clone or download」ボタンをクリックして「Download ZIP」を選択します。



ダウンロード&サポート

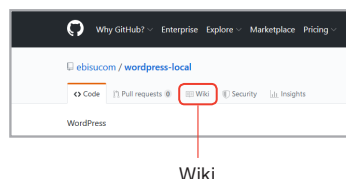
<https://github.com/ebisucom/wordpress-local>

※ 本書の内容に関してご意見などありましたら、下記のアドレスにご送付ください。

※ 個別に返答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

※ サポートが必要な場合は上記ページの Wiki にて対応させていただきます。

ep@ebisu.com



- ・ 本書に記載した情報や URL は 2019 年 10 月 25 日時点のものであり、ご利用時には変更されている場合があります。
- ・ 本書中に掲載している画面イメージは、特定の設定に基づいた環境で再現される一例です。ご利用の環境によっては本書通りの画面にならないことがあります。
- ・ 本書の内容については正確な記述につとめました。内容に関してなんらかの保証をするものではなく、誤りや不正確な記述がある場合も、エビスコムはその一切の責任を負いません。
- ・ 本書の内容に基づいていかなる運用結果についてもエビスコムは一切の責任を負いません。お客様自身の責任と判断において運用を行ってください。
- ・ 本書は著作権法上の保護を受けています。本書のいかなる部分についても、エビスコムとの書面による同意なしに複製、複製、転載することは禁じられています。
- ・ 本書中に登場する会社名、商品名、ロゴは、該当する各社の商標または登録商標です。本書中では® および TM マークは省略させていただいております。

1

WordPressのローカル環境

WordPress のテーマを制作する際に、サーバーとは別にローカルな環境があると非常に便利です。ローカルな環境としては、これまでも XAMPP を始めとして様々な環境がありましたが、現在の主流は Local by Flywheel です。

Local by Flywheel が人気のある理由は、PHP や MySQL のバージョンを自由に組み合わせて WordPress サイトを簡単に立ち上げることができるためです。もちろん、複数の WordPress サイトを立ち上げることも可能ですし削除するのも簡単です。

また、ローカル環境にごちゃごちゃとインストールされないため、クリーンな状態を保てるというメリットもあります。

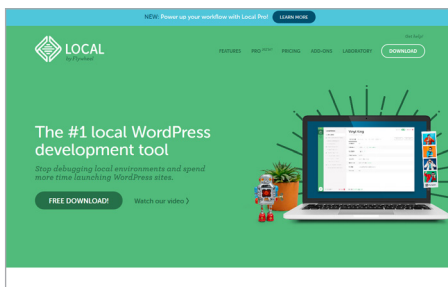
そこで、Local by Flywheel の導入方法を解説していきます。

2

Flywheel とは？

Flywheel は、WordPress のホスティングサービスです。このホスティングサービスで利用する WordPress 環境をローカルで準備するために用意されたのが、Local by Flywheel です。

単に WordPress を起動できるだけではなく、ホスティングサービスを再現するためのさまざまな機能が用意されています。



Local by Flywheel

<https://localbyflywheel.com/>

3

Local by Flywheel を導入する前の予備知識と確認

Local by Flywheel を導入するにあたって、あらかじめ理解しておいたほうがいいことをまとめておきます。

Local by Flywheel のベースはDocker

Local by Flywheel は Docker をベースとしたものです。Docker は Linux のコンテナ技術を利用した仮想環境ですので、これを利用するためには Linux 環境が必要となります。

Local by Flywheel を Mac や Windows へ導入する上で重要なのが、この Docker を動かすための Linux 環境です。Local by Flywheel ではこの Linux 環境を用意するために、Oracle VM VirtualBox を利用しています。

Oracle VM VirtualBox
<https://www.virtualbox.org/>

つまり、Oracle VM VirtualBox が動く環境でないと、Local by Flywheel を使えないことになります。macOS であれば、基本的に問題はありませんが、Windows では環境に応じて諸々の確認が必要です。

また、最終的に動かす WordPress は、macOS や Windows の上で動く「Linux」の中で動くコンテナに存在することになるため、アクセスするためにはちょっとした制約が生まれることにも注意が必要です。

もっとも、そのあたりは Local by Flywheel がうまくコントロールしていますので、それほど問題になることはありません。

以上を踏まえた上で、導入を進めていきます。

確認事項

まずは、必要スペックの確認をしてください。

macOS 環境の場合はスペックが十分であれば、問題はありませので、次に進んでください。

Windows の場合は、Intel VT-X/AMD-V が有効な環境であり、なおかつ、Hyper-V が無効になっている必要があります。問題がなければ、こちらも次へ進んでください。

よくわからない場合には、以下の手順で確認していきます。

macOS

- OS X 10.9
- 1 GB ディスクスペース

Windows

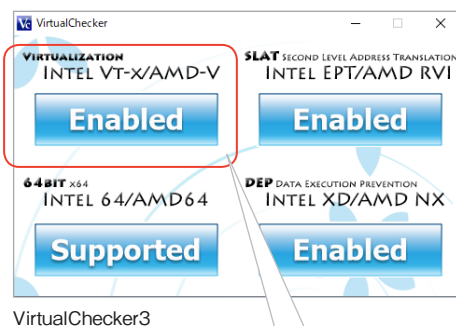
- 4GB RAM
- 1GB ディスクスペース
- Windows 7、8、8.1、10
- CPU (Intel VT-x/AMD-v が有効)
- Hyper-V が無効

① Intel VT-X/AMD-Vが有効な環境であることを確認する

まず、下記のサイトから「VirtualChecker3」を入手します。

<https://openlibsys.org/index-ja.html>

起動すると右のようなウィンドウが開きますので、左上の「Intel VT-X/AMD-V」の項目を確認してください。



→ 「Enabled」なら OK です。

→ 「Disabled」ならハードウェアレベルで機能が停止されていますので、BIOS/UEFI で有効化してください (メーカーによって設定項目が異なりますので、パソコンやマザーボードのマニュアルで確認してください)。

→ 「Unsupported」の場合は、CPU がサポートしてません。Local by Flywheel を利用することはできません (しかし、あきらめなくてもよくなりそうです。P.18 の Local Lightning を参照してください)。

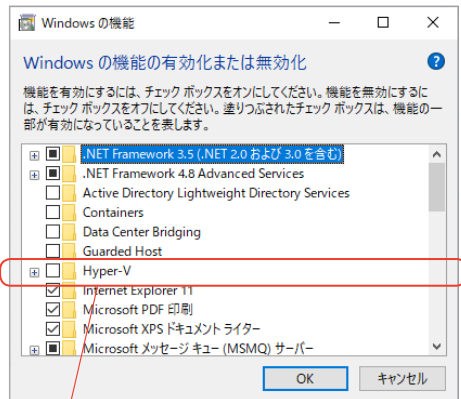
② Hyper-Vが無効になっていることを確認する

次に Hyper-V が無効になっていることを確認します（Windows10 Home の場合は、Hyper-V は利用できませんので、確認の必要はありません）。

[Windows の設定 > アプリ > プログラムと機能 > Windows の機能の有効化または無効化] で、Windows の機能のウィンドウが開きますので、ここで「Hyper-V」にチェックが付いていないことを確認してください。

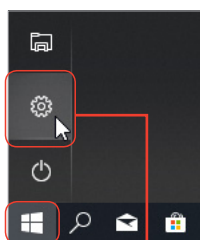
もしもチェックが付いている場合には、すべて外します。ただし、他のアプリケーションが Hyper-V を使っている場合には、そのアプリケーションが動かなくなりますので、注意してください。

以上で確認は完了です。

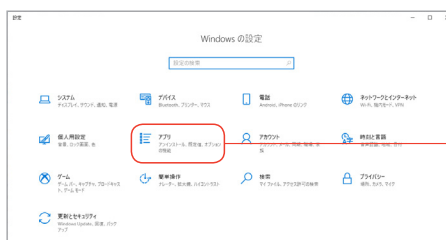


「Hyper-V」にチェックが付いていないことを確認。

Windows の機能のウィンドウはスタート画面から開いていくことができます。



「スタート」をクリック。
「設定」をクリック。



Windows の設定。

「アプリ」をクリック。



「プログラムと機能」をクリック。



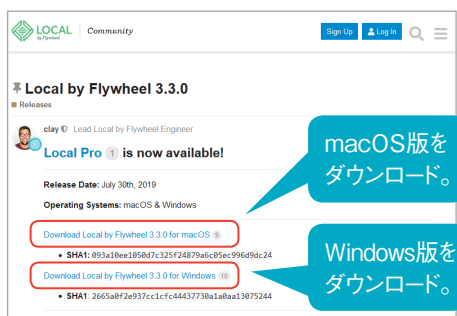
「Windows の機能の有効化または無効化」をクリック。

4

Local by Flywheel のインストール

- ① Local by Flywheel は右のページに用意されたリンクをクリックしてダウンロードします。

トップページの「FREE DOWNLOAD!」ボタンをクリックしてダウンロードすると、「Local Lightning」と呼ばれている現在開発中のバージョンがダウンロードされますので、注意が必要です。そちらに関しては P.18 を参照してください。

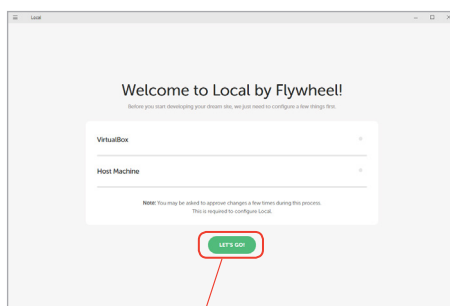
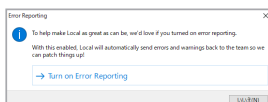


Local by Flywheel 3.3.0

<https://localbyflywheel.com/community/t/local-by-flywheel-3-3-0/13527>

- ② ダウンロードが完了したら、ソフトを実行してインストールを始めます。

「Error Reporting」と表示された場合は、エラーレポートを送るかどうかを指定します。

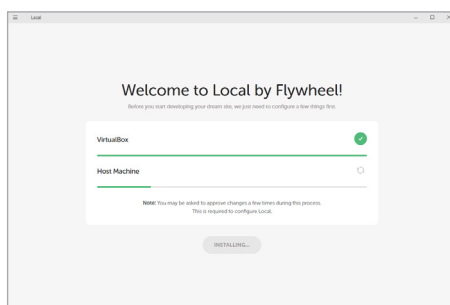


「LET'S GO」をクリックしてインストールを開始。

- ③ VirtualBox をインストールし、その上で稼働する Linux 環境が用意されます。Linux 環境の起動までが行われますので、それなりの時間がかかります。

boot2docker という Linux 環境を利用しているようです。

<https://github.com/boot2docker/boot2docker>

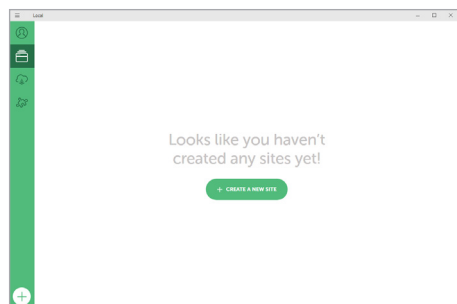


macOS 環境でのインストール中に「機能拡張がブロックされました」と表示された場合、「"セキュリティ" 環境設定を開く」をクリックし、ブロックされた機能拡張を「許可」します。



- ④ 無事にインストールが終わると、右のようなウィンドウが開きます。以上で、Local by Flywheel のインストールは完了です。

続けて、WordPress 環境を作成していきます。

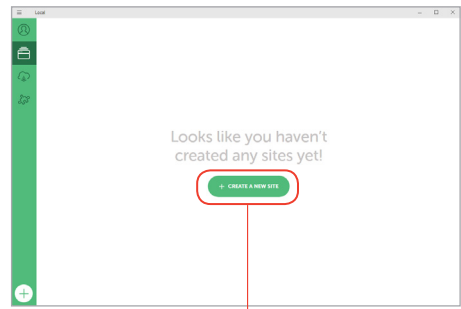


「Local by Flywheel」のウィンドウ。

5

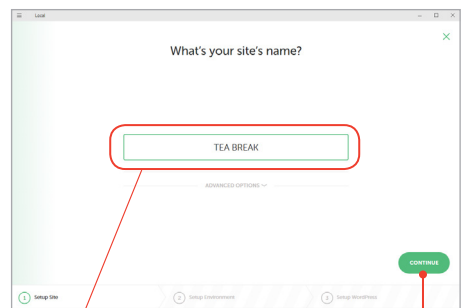
WordPress環境の作成

- ① WordPress 環境を作成していくため、「CREATE A NEW SITE」をクリックします。



「CREATE A NEW SITE」をクリック。

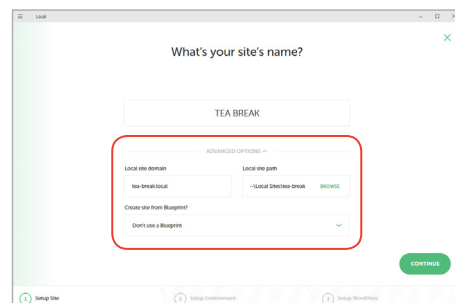
- ② 立ち上げる WordPress のサイト名を入力します。ここでは「TEA BREAK」と入力しています。



サイト名を入力。

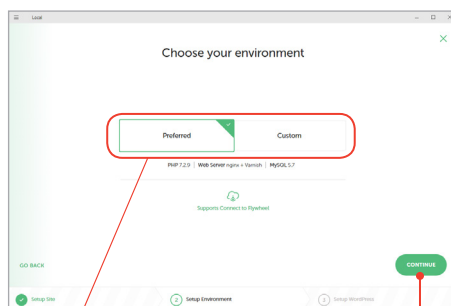
「CONTINUE」をクリック。

サイト名を入力する画面の「ADVANCED OPTIONS」では、ローカル環境で利用できるサイト名やサイトのデータが保存されるパスの指定、雛形がある場合には利用する雛形の指定を行うことができます。



ADVANCED OPTIONS。

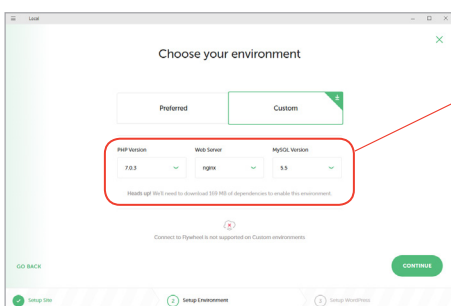
- ③ 続いて、WordPress の構成の設定です。
「Preferred」を選択すると Flywheel の標準
設定でのインストールになります。「Custom」
を選択すると PHP や MySQL のバージョン、
http サーバーの選択が可能です。



「Preferred」または「Custom」
を選択。ここでは「Preferred」
を選択しています。

「CONTINUE」を
クリック。

「Custom」を選択したときに設定できる項目

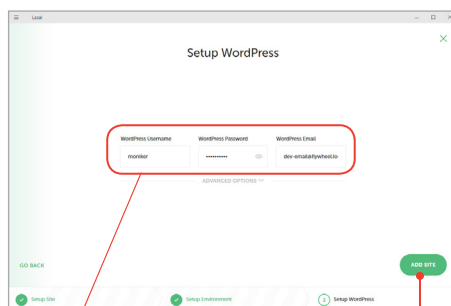


PHPのバージョン。

httpサーバー。

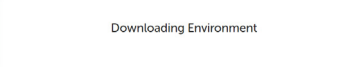
MySQLのバージョン。

- ④ WordPress のユーザー名とパスワード、メー
ルアドレスを入力します。



ユーザー名、パスワード、
メールアドレスを入力。

「CONTINUE」を
クリック。

- 

-
- The screenshot shows the WordPress dashboard with the 'Local Sites' menu item highlighted in the sidebar. The main content area displays the 'Local Sites' overview, including a table of sites and a 'Local Sites Overview' section. A red box highlights the 'Local Sites' menu item in the sidebar. A red line connects this menu item to the 'Local Sites' section header. Another red line connects the 'Local Sites' section header to the 'Overview' tab in the top navigation bar.

サイトの情報。

「VIEW SITE」をクリックすると、ブラウザが起動してサイトが表示されます。「ADMIN」をクリックすると、管理画面へアクセスします。設定したユーザー名とパスワードでログインし、WordPress の設定を完了してください。WordPress の日本語化については P.14 を参照してください。

サイト名の下に表示されているのが、サイトのデータのパスです。クリックすることで簡単にアクセスすることができます。



サイト。

DATABASE

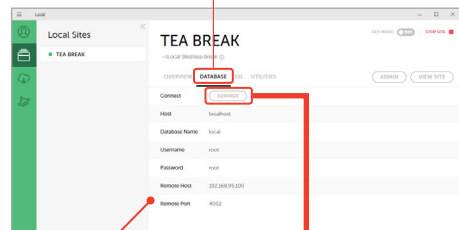
「DATABASE」タブでは、データベースに関する情報を確認できます。

Adminer を利用することができますので、データベースを直接操作することも可能です。

Adminer はブラウザから利用できるデータベース管理ツールです。

<https://www.adminer.org/>

「DATABASE」タブ。



データベースに関する情報。

「ADMINER」をクリック。

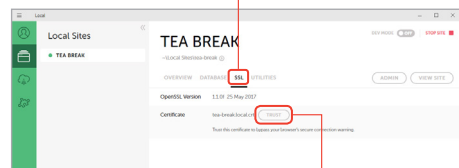


Adminerが開きます。

SSL

「SSL」タブで「TRUST」をクリックすると、サイトのSSL化も可能です。

「SSL」タブ。

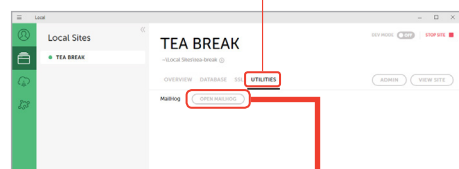


SSL化する場合は「TRUST」をクリック。

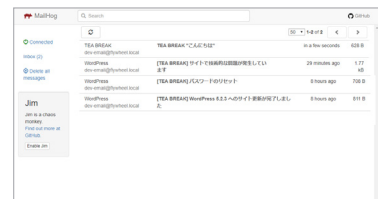
UTILITIES

「UTILITIES」タブでは、MailHogを確認することができます。MailHog はテスト用の SMTP サーバーで、WordPress のメール周りのテストもできるようになっています。

「UTILITIES」タブ。



「OPEN MAILHOG」をクリック。

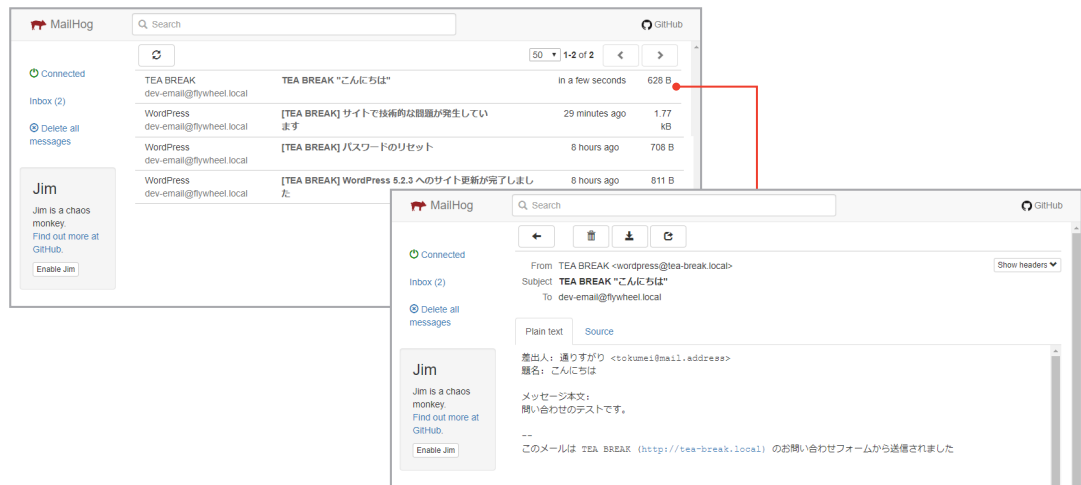


MailHOGが開きます。

MailHog

<https://github.com/mailhog/MailHog>

たとえば、サイトに設置したフォームをテストする場合、フォームから送信したメッセージは MailHog で確認することができます。同様に、WordPress がシステムから送信してくるメール（アップデートの情報やパスワードのリセットなど）も、MailHOG で確認することが可能です。



フォームから送信したメッセージ。

ただし、「WP Multibyte Patch」プラグインが有効化されている場合、メールが文字化けします。これは、「WP Multibyte Patch」が有効になることで、メールを送信する際の文字コードが JIS になるためです。

WP Multibyte Patch

<https://eastcoder.com/code/wp-multibyte-patch/>

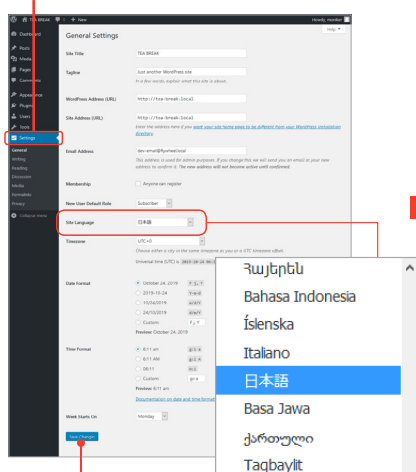
文字化けを防ぐためには、上記のページを参考にして文字コードを UTF-8 に変更するか、フォームなどの動作チェックの際には「WP Multibyte Patch」プラグインをオフにする必要があります。

```
/**
 * wp_mail() の文字エンコーディング
 *
 * この設定は WordPress から wp_mail() を通して送信されるメールに適用されます。
 * 指定可能な値は、'JIS'、'UTF-8'、'auto' です。
 * この設定は $wpmp_conf['patch_wp_mail'] が false の場合は無効となります。
 */
$wpmp_conf['mail_mode'] = 'JIS';
```

WordPressの日本語化

Local by Flywheelで作成したWordPressはP.11の手順で管理画面を開き、次のように日本語化の設定を行います。

「Settings」を選択。



「Save Changes」をクリック。

Site Languageで「日本語」を選択。



設定ができれば「変更を保存」をクリック。

タイムゾーンで「UTC+9」または「東京」を選択。



日本語環境のために用意された日付と時刻のフォーマットを選択。

さらに、[ダッシュボード]でWordPressのバージョンを確認し、必要に応じて最新版に更新します。更新は[ダッシュボード>更新]で行います。



WordPress 5.2.4 (Twenty Nineteen テーマ)

WordPressのバージョンを確認。

6

WordPressへのアクセス

立ち上げた WordPress サイトにアクセスする場合、Local by Flywheel にはちょっとした制限があります。Local by Flywheel が稼働している PC からアクセスする場合、すでに試したように「VIEW SITE」をクリックするか、設定されている「Site Domain」を使ってアクセスすることができます。

ところが、Local by Flywheel が稼働している PC とは違うデバイスからアクセスする場合には、同じ LAN 上にいるかどうかに関わらず、「Site Domain」ではアクセスすることができません。

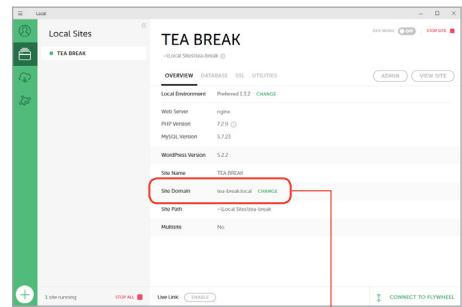
これは、Local by Flywheel が用意する仮想環境が原因です。

そのため、他のデバイスからアクセスする場合には、Local by Flywheel に用意されている「サイトをインターネットに公開する機能」を利用します（残念ながら LAN 内で完結することはできません）。サイトの情報の下にある、Live Link の「ENABLE」をクリックします。

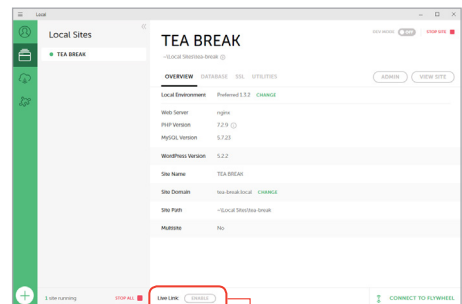
すると、URL が発行されますので、この URL でアクセスが可能になります（URL はその都度変わります）。「DISABLE」をクリックすると、公開が終了します。

この機能は、ngrok のサービスを利用したもので、ローカル PC の特定のポートを簡単にインターネットに公開することができます。

<https://ngrok.com/>



Site Domainの設定。



「ENABLE」をクリック。



アクセス可能なURL。

公開を終了する場合は「DISABLE」をクリック。

ローカルアクセス

どうしてもローカルアクセスしたい場合には、以下の問題をクリアする必要があります。環境に応じて準備しなければならないものが変わりますので、ここではヒントだけ。

VirtualBox で動いている Linux には、ホストオンリーアダプターが設定されています。そこで、他のデバイスからもアクセスできるようにブリッジアダプターを追加し、LAN 上の IP アドレスを割り当てます。

続いて、Local by Flywheel をインストールしたホストマシンの hosts ファイルを確認します。

```
## Local by Flywheel - Start ##
192.168.95.100 tea-break.local #Local Site
192.168.95.100 www.tea-break.local #Local Site
192.168.95.100 sample.local #Local Site
192.168.95.100 www.sample.local #Local Site
## Local by Flywheel - End ##
```

といった形で、Local by Flywheel による設定が確認できると思います。ここで並んでいる IP アドレスは、ホストオンリーアダプターに割り振られたものです。そこで、ブリッジアダプターに割り当てた IP アドレスに置き換えた形で、LAN 環境に応じた形で利用することになります。

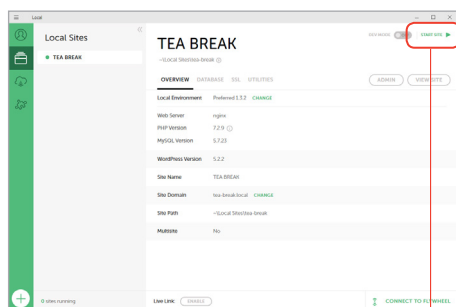
例えば、LAN 上の各デバイスの hosts に追加するのもありですし、dnsmasq といった DNS サーバーを用意するのも便利です。

7

Local by Flywheel の終了と再起動

Local by Flywheel を終了すると、Docker コンテナ上の WordPress サイトと Linux 環境が終了します。

Local by Flywheel を再起動した場合、Linux 環境が起動されますが、WordPress サイトは起動しませんので、必要に応じて起動する必要があります。



Local by Flywheelを再起動したときの状態。

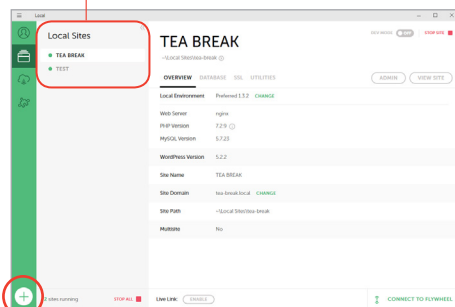
START SITE

「START SITE」をクリックしてWordPressサイトを起動します。

WordPressサイトの追加

WordPress サイトは「Add Local Site」をクリックして追加していくことができます。追加されたサイトの一覧は Local Sites に表示されます。

サイトの一覧。



「Add Local Site」でサイトを追加。

8

Local Lightning

「Local by Flywheel」は次世代バージョンの開発が進んでいます。これまでの v3 シリーズ（この原稿を書いている時点で v3.3.0）に対して、v5 シリーズとして開発されており、「Local Lightning」としてパブリックベータ版が公開されています。

「Local Lightning」については以下のページから最新版のページを開いてダウンロードしてください。

<https://localbyflywheel.com/community/c/releases>

これまでの「Local by Flywheel」とは異なり、Docker ベースではなくなったため、アプリケーションやサーバーの起動が高速化されています。さらに、以下の点でも強化されています。

- Linux 版の登場
- 32bit 環境でも利用可能
- もちろん、Intel VT-X/AMD-V も必要なし

v5.0.6 では、PHP や http などの選択が不可能であるなど、まだまだ機能は完全ではありませんが、これまでの「Local by Flywheel」で作成したサーバーを Export し、「Local Lightning」で Import することが可能ですので、簡単に試すことができます。

また、LAN 内からのアクセスに関しては、ネットワーク周りがシンプルになったため、hosts を利用して、サイト名と IP アドレスを紐付けるだけで良くなっています。

Export は、サイト名を右クリックすることで表示されるメニューから可能です。Import は、Export されたファイルを、サイト作成画面にドロップしてください。

注意

Local by Flywheel と Local Lightning は共存可能ということになっていますが、hosts の設定がコンフリクトを起こします。それぞれのアプリケーションを起動することで修正は可能ですが、注意してください。

WordPress 5.x のブロックエディタ「グーテンベルク（Gutenberg）」を活かし、テーマの作成&サイト構築を行う書籍です。



WordPressレッスンブック 5.x対応版

印刷書籍

フレキシブルボックス

グーテンベルクの働きを確認しつつ、ひとつひとつ必要な設定をしながらテーマを作成していく1冊。

<https://ebisu.com/wplesson/>



グーテンベルク時代のWordPressノート テーマの作り方 (入門編)

オリジナル電子書籍

CSSグリッド

グーテンベルクを活かしたオリジナルテーマの作成方法をステップ・バイ・ステップで解説。

<https://ep.ebisu.com/wordpress-note/>



グーテンベルク時代のWordPressノート テーマの作り方 2 (ランディングページ&ワンカラムサイト編)

オリジナル電子書籍

CSSグリッド

グーテンベルクを使う方法、使わない方法の両方でランディングページ&ワンカラムサイトを作成。

<https://ep.ebisu.com/wordpress-note-lp/>

■ 著者

エビスコム

さまざまなメディアにおける企画制作を世界各地のネットワークを駆使して展開。コンピュータ、インターネット関係では書籍、デジタル映像、CG、ソフトウェアの企画制作、WWW システムの構築などを行う。

主な編著書：『CSS グリッドレイアウト デザインブック』マイナビ出版刊
『HTML5&CSS3 デザイン 現場の新標準ガイド』同上
『6 ステップでマスターする「最新標準」HTML+CSS デザイン』同上
『WordPress レッスンブック 5.x 対応版』ソシム刊
『フレキシブルボックスで作る HTML5&CSS3 レッスンブック』同上
『CSS グリッドで作る HTML5&CSS3 レッスンブック』同上
『HTML5&CSS3 ステップアップブック』同上
『WordPress AMP 対応 モダン Web 制作 レッスンブック』同上
『WordPress デザインブック HTML5&CSS3 準拠』同上
『HTML5&CSS3 デザインブック』同上
『グーテンベルク時代の WordPress ノート テーマの作り方（入門編）』エビスコム刊
『グーテンベルク時代の WordPress ノート テーマの作り方 2
（ランディングページ&ワンカラムサイト編）』同上

ほか多数

■ STAFF

編集・DTP・カバーデザイン：エビスコム

WordPress ローカル環境 構築ガイド

2019 年 11 月 8 日 初版（ver.1.0）発行

著者 エビスコム
発行 EP エビスコム [Electronic Publishing EBISUCOM]
<https://ep.ebisu.com/>